

長崎県幼児教育センターだより



No. 17



2025. 7. 22



～園長等運営管理協議会が開催されました～

6月12日(木)、13日(金)に、令和7年度園長等運営管理協議会が開催されました。

初日は、長崎県庁で行われ、午前中に、洗足こども短期大学 幼児教育保育科 井上真理子教授に、「地域とともに歩み、学び合える組織をつくるためのリーダーとしての在り方」と題して講義をしていただきました。講義の中で、「省察、振り返りを行うことで、組織の枠組みを捉え直し、当たり前を見直すことが大切」「パフォーマンスが高い組織は、心理的安全性が高く、これが人材の定着率を高め、組織を安定して成長させる」「変容をポジティブに捉える組織風土を大切にし、学習する組織であれ」という3点について触れ、いずれも、実現するためには、組織の構成員が主体的に関わることでリーダーがリーダーシップを発揮することが重要だと分かりました。



午後は、文部科学省初等中等教育局 幼児教育課 幼児教育調査官 平手咲子先生に、『小学校教育につながる「遊びの中の学び」並びに架け橋期のカリキュラム作成に向けた幼保小連携とプロセスの具体について』と題して、講義をしていただきました。幼児期の学びを小学校の学びにつなげることの重要性についての演習では、まず、幼児期の大切な学びが分かる動画を視聴しました。次に、幼児の学びを見つけ、それは小学校の学びにどのように関わっているかを考え、少人数で開き合い、互いの考えや気付きを交流しました。小学校教諭と園長で開き合いを行ったグループでは、幼稚園の先生の言葉かけに感銘を受ける小学校教諭の姿があり、幼保小をつなぐ貴重な時間になりました。この演習のように、同一校区の幼保小職員が集まり、相互理解を図る話合いができれば、架け橋期の接続も進んでいくことでしょう。

どちらの講義も、参考になったという感想がほぼ100%で、有意義な研修となりました。

二日目は、長崎大学教育学部附属幼稚園にご協力いただき、公開保育と協議を行いました。参観者は、遊びに熱中する子どもたちが何を学んでいるのかについて、言動や表情、しぐさなどを真剣に観察していました。この日は雨でしたが、雨の日にはしか見られない保育を見ることができました。保育後は、「遊びの中の学び～小学校へつながる学びについて～」と題して協議を行いました。グループ協議では、時間も忘れて話し合う姿が見られ、参加者の意識の高さを感じました。協議後の全体共有では、協議内容を基に質問があり、それに対して附属幼稚園の園長先生が丁寧に答えくださいました。会の後も園長先生や参加者同士で意見交換する姿が見られ、有意義な時間となりました。



～公開保育実施を幼児教育センターがサポートします～

長崎県では、幼児教育施設が公開保育等を通じて取り組みを相互に共有し学び合う機会を確保するため、県内施設の公開保育情報をお知らせいたします。情報は、下記URL、長崎県幼児教育センターのホームページ内に掲載していきますので、随時ご確認いただきますようお願いいたします。

また、幼児教育センターでは、公開保育開催までのサポートも行います。どのような公開保育を実施したいか、運営はどのようにしていけばよいか、公開保育についての周知はどのようにすればよいか、など、公開保育を行うまでにご相談したいことがあれば、幼児教育センターにご相談ください。

[園が行う公開保育を長崎県幼児教育センターがサポートします！ | 長崎県](#)

～新規採用研修2追加募集～



令和7年10月22日、23日に、幼稚園等新規採用教員研修2が実施されます。5月に実施した1回目では、受講者が主体的に研修に臨む姿が見られました。さて、2回目を実施するにあたり、30名ほど追加で受け入れることが可能です。右記二次元コードからフォームにアクセスいただき、申し込みをお願いいたします。締め切り日は8月29日（金）ですが、申込みが30名に達した時点で締め切りますので、ご了承ください。



（文責：小林 真実）

制作の場面で

（「制作」か「製作」か調べてみると、「制作」は芸術的・創造的なものをつくること、「製作」は機械や道具など物理的・工業的なものをつくること、とありましたのでここでは「制作」を使わせていただきます。）

どの園も保育の中に制作を取り入れていますが、そもそも制作にはどのような価値があるのか考えてみました。

★折り紙をするときに、「三角」「四角」などの形や「赤」「青」など色を表す言葉に出会わせることができる。端をそろえて折るという経験で手の巧緻性を高めることができる。

★はさみで紙が切れる。紙を動かすと上手に切れることを体得する。

★のりではることができる。指でつけるタイプののりは「白いのが透明になるようにのばしてね」と声をかけて、のりを薄くのばしてつける技術を習得するとともに、「透明」や「のばす」という言葉に出会わせることができる。

このように、制作では、技能の習得とともに言葉の習得もできる機会になります。このようなことは、大人が意図的に言葉を使ったり、経験をさせたり、教えたりして、だんだん身に付いていくものです。発達段階に合った制作であること、様々な素材や表現方法に出会わせることがポイントです。

ただ、大事にしてほしいのは、見栄えの良い、先生の見本どおりの、画一的な作品ができることではなく、**自分なりの表現で子どもが楽しんでつくり、個性あふれる作品ができることです。**完成のゴールは子どもが決めます。「先生、これでいいですか？」ではなく、**自分の出来に満足して「できた！」**と言える子どもを育ててください。

（センター長 室野）